

解答

一

- 問一 お洒落は身だしなみの一部
- 問二 (1) 男子みたいな恰好
- 問三 (2) 二人の弟たちにお下がりをおあげるため
- 問四 お洒落について瑠璃羽ちゃんと言っていることは正しいと思うが、自分にはできそうにないから負けおしみてめんどくさいと言ったり、クラスの雰囲気も悪くしてしまったりしたところ。
- 問五 自分の言葉は失礼でその場にふさわしくなく、センスのないものだったので、しいちゃんをなぐさめることはできなかったと感じたから。
- 問六 エ
- 問七 洋服をたくさん持っている女の子が強い
- 問八 ー イ 2 ア
- 問九 同じお洒落をしている人とは仲間、ちがうお洒落をしている人とは仲間ではないということ。
- 問十 ウ
- 問十一 ウ
- 問十二 肩の力が抜けるようなのかな声
- 問十三 組紐をはやらせることで自分も新しい戦争を作ったのかもしれないという不安をおじさんが受け止めてくれ、なぐさめてくれると期待していたのに、「そうかもしれないね」と肯定されてしまい、現実をつきつけられたように思ったから。
- 問十四 目に見えないいろいろなことを人に伝え、仲間だという絆を深める力がある。
- 問十五 ● 自分のしたことを認めてくれた人がいると知ったこと。
- 誰かと言葉でつながり、言葉で仲間になったと感じたこと。
- ア 基準 イ 染〔め〕 ウ つ〔げ〕 エ 専門家 オ 縦

二

- ① 引・ウ ② 承・ア ③ 色・エ

解説

一

- 問八 おじさんは「（お洒落は）自分が人と同じだということ、もしくはちがうということ（を見せたかった）」と同じとちがうは、仲間と仲間じゃない人だね」と言っています。自分が、同じ仲間だ、もしくは、仲間じゃないということを伝えるためにお洒落があったと言っています。
- 問十二 「私、ルールを変えただけで、結局、新しい戦争を作っちゃっただけなのかもしれない」という不安を話した詠子は、「おじさんがそれを全部拾い集めて、きれいにまとめてくれることを心のどこかで期待していた」が、「そうかもしれないね」と言われてしまいます。あまえを許されず、現実を直視させられたと考えることができます。
- 問十三 「お洒落は、仲間っていう目に見えない絆を、人に伝えるための道具だった。言葉、そこから進化して、さらにいろいろなことを人に伝えるために作られたんだ」「人間は、お洒落、言葉、芸術の順番で、仲間との絆を深める方法を獲得していった」といったおじさんの言葉から考えて答えましょう。